

～ヒトメタニューモウイルス～

ヒトメタニューモウイルスは、細気管支炎や肺炎の原因になるウイルスです。2001年に発見されたウイルスですが、昔から人の間で流行してきた呼吸器系のウイルスの一種で、新しい驚異的なウイルスと言うわけではありません。

1歳前後～5歳くらいまでの間の乳幼児の間で流行する傾向があり、2歳までに50%の子どもが、10歳までにはほぼ100%の子どもが感染すると言われています。ただ、一度の感染では免疫がつかないため何度でも感染します。

このウイルスは一年中感染しますが、3月～6月に一番流行しやすく、症状はRSウイルスと非常によく似ています。



最近、検査キットが開発され、確定診断のために外来でも検査ができるようになりましたが、保険適応は限られ（6歳未満で肺炎が疑わしい患者さんのみ）、それ以外の患者さんは流行状況と状態から推測します。高熱が続き咳込みが激しく、インフルエンザでもなくRSウイルスでもない場合には、このウイルスを疑います。



感染すると高い熱が2-5日ほどと、激しい咳き込みが続くことが多いです。

〔典型的な症状・経過〕

感染→（4～6日間くらいの潜伏期間）→最初は咳・鼻水の軽い風邪症状→高熱（2～5日間）+悪化する咳や喘鳴（ゼイゼイ）などに進展。熱がでてから2～4日目あたりが熱や呼吸が一番つらくなりやすい→約1週間で改善。



ヒトメタニューモウイルスの治療には、残念ながらまだ特効薬がなく、咳や発熱の症状を和らげる対症療法（お薬を飲んだり吸入したり）がメインになります。咳込みやゼイゼイの時は、お子さんを縦抱きにするか、夜間は上体を起こして（もたれかけるように）寝かせると少し楽になります。また脱水にならないための水分補給が重要（経口補水液とは…の項（HPNo.15））です。

*ヒトメタニューモウイルスに感染すると、2週間くらいは、お子さんの唾液や鼻汁にウイルスが残るため、その間は他の人にうつす可能性があります。咳やくしゃみなどを介してうつる飛まつ感染と、ウイルスが付着したおもちゃをなめたり触ったりして感染する接触感染があるので、家庭や保育園などの集団生活ではケアする大人達の配慮が大切です。手洗いとうがいをしっかりとしましょう。



*〔登園・登校停止期間〕の決まりは特にありません。

解熱して食欲が普段通り+夜間良眠を目安にしましょう。

グレイス病院小児科

松居 ゑり子